


### 3.3 地区カルテ及び事例紹介用資料の作成

8つのモデル地域における、本物資源の概要、地域・組織の取り組み状況、取り組み課題等について、地区カルテ及び事例紹介用の資料(PPT)として整理した。

カルテ及び事例紹介用資料は、次頁以降に示す。

高島市針江地区 (滋賀県)	ほんまもん資源	資源分類						指定・選定・認定等
	生水(湧水)「かばた」	農林水産	産業技術	歴史	伝統文化	芸能芸術	自然環境	ランドマーク
地域づくりの取り組みの特徴・PR	先人の知恵により生み出された生態系を活かした水浄化システム“かばた”。地域住民一人一人がその生活文化に誇りを持ち、一丸となってこの資源を保全し、次世代へ継承する取り組みを行っている。観光名所としてではなく、勉強する場、癒しの場としての名所づくりをコンセプトに積極的にまちづくりを展開中。活動における課題は特になくというほど取り組みは順調で、海外からも観光客が訪れるほど地域の魅力が高まっている。							

位置図		ほんまもん資源の概要			
		特徴(ほんまもん潜在能力度)		写真・図等	
		独自性	資源の歴史・文化	<p>【生水(しょうず)】比良山系の伏流水が湧き出す針江地区は水の豊富な地域であり、人々はこの湧き水を“生水”と呼び、「生きた水」「生きる水」「命の水」として大切に利用してきた。</p> <p>【川端(かばた)】先人の知恵による元池～壺池～端池からなる水浄化システム。元池に湧き出した生水を壺池に引き込み、野菜洗い、米とぎ、洗顔などに利用する。その水は端池に流れ込み、そこで飼われている鯉が料理の残飯などを食べることで水が浄化され、その水が琵琶湖に流れる仕組み</p>	 <p>針江地区の清流</p>
			資源に関連する人物伝	針江地区の先人達	
		永続性	保全・継承	“指定・選定・認定”等の登録、針江生水の郷委員会、環の郷産業経済振興協議会	
		流通性	マスメディア登場経歴	NHK総合テレビ「映像詩：里山『命めぐる水辺』」が、この地域独特の文化に着目し、人と自然の営みを紹介したことを機に、近年では全国から来訪者が後を絶たない。	
希少性	明確な特徴	先人の知恵による“元池～壺池～端池”からなる生態系を活かした水浄化システム(人と鯉のWIN to WINな関係)を今もなお保全・継承しつづけている点			
	地域限定	国内でも貴重な“生水”“川端”という歴史ある独特の資源を有する地域	 <p>川端</p>		

高島市針江地区 (滋賀県)	ほんまもん資源	資源分類						指定・選定・認定等
	生水(湧水)「かばた」	農林水産	産業技術	歴史	伝統文化	芸能芸術	自然環境	ランドマーク
平成の名水百選、びわ湖・里山観光振興特区「全国美の里コンクール」農林水産省銀賞受賞、「豊かなむらづくり全国表彰事業」農林水産大臣賞受賞、エコツーリズム大賞特別賞受賞								

## 資源を活かした地域づくりへの取り組み状況等

【活動団体名称】【活動目標】	【実施事業・取り組み】【今後の実施事業】	【取り組みの推進体制】【課題】
<p><b>【活動団体名称】</b> 針江生水の郷委員会</p> <p><b>【活動目標】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■訪問客や各種団体等の案内、マスコミ取材に対応、藻刈りなどの体験ツアーの企画化、川端のある空き家を体験型宿泊施設に改装し希望者に提供するなど、川端文化の継承とエコツーリズムで地域の活性化を目指す。</li> <li>■単に来訪者に対応するのではなく、住民一人一人が地域の素晴らしさを再発見するとともに、暮らしに誇りを持ち川端という貴重な生活文化や琵琶湖の豊かな自然を未来へ継承・発展させていく。</li> <li>■先人が築き上げてきた素晴らしい川端文化を次世代に残せるよう活動するとともに、『水のありがたさ』『水と里山の関係』を全国に発信する。</li> </ul> </p>	<p><b>【実施事業・取り組み】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■里山水辺ツアー、川端と街並み見学、ヨシ刈りツアー、針江生水の生活体験処「川端の生活体験」、藻狩り(年4回住民総出。藻刈り(儲かり)ツアーも実施している。藻刈りは、区民とともに、学生、外国人の方も参加。昨年12月の時には、約400名の方が参加した。(西ノ湖のヨシ刈りは150人の参加であった。)</li> <li>※川端と街並み見学ガイド料(大人¥1,000)は地域の環境整備、保全等に使われている。</li> <li>■大学や各団体と連携した様々な活動を続けている。</li> <li>■平成18年度湖づくり活動費補助金(滋賀県)による湖づくり活動『川端の調査・分析を通じた水文化の伝承と琵琶湖の保全』 <ul style="list-style-type: none"> <li>①川端システムの水質保全および生態系に関する影響の調査・解析</li> <li>②調査・解析結果の発表を通じた住民啓発</li> <li>③住民を対象とした現地見学会および川端保全の検討会の開催</li> </ul> </li> </ul> </p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">藻狩り                      里山水辺ツアー                      針江生水の生活体験処 「川端の生活体験」</p>	<p><b>【取り組みの推進体制】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■設立2004年4月、当時26名(ほとんどが若い人)。来訪者を案内する活動を行った。</li> <li>■現在、正会員は70数名。協力してくれる方を含めると100名以上。</li> <li>■活動を行っている70数名(正会員)は地区の人で構成。案内人が足りない時は、地域の人が協力して対応してくれる。</li> <li>■活動のメンバーには、プロは一人もいない。寄せ集めで行っている。現在は組織立て環境部門、案内部門などを作り、それぞれ責任者を立てて、責任を持って活動してもらっている。</li> <li>■活動メンバーは平均約50歳。農家、サラリーマン、公務員、学校の先生など肩書きは様々でできる時に活動している。針江が好き、琵琶湖が好きということが原動力。</li> <li>■活動を行っている人はボランティア精神でやってもらっている。250円/時間の報酬しか無いが、文句を言う人もいない。</li> <li>■昨年は、年間8,000人が訪れ、売上げも1,000万を超えた。右肩上がりである。</li> <li>■ホームステイは、4,000~4,500円/泊。宿泊施設は3,000円/泊で提供。</li> <li>■活動に協力してもらった報酬は地域通過愛貨「アイカ」で支払う。高島市の加盟店舗で使用できる。</li> <li>■活動の収入源は、ガイド料などの他に、個人や企業の寄付もある。</li> <li>■日本財団で水の学習プロジェクトが取り組まれるなど、企業のバックアップもある</li> </ul> </p>

## 資源を活かした地域づくりへの取り組み状況等

【活動団体名称】【活動目標】	【実施事業・取り組み】【今後の実施事業】	【取り組みの推進体制】【課題】
<p><b>【活動団体名称】</b> 環の郷産業経済振興協議会</p> <p><b>【活動目標】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■高島市の豊かな自然や歴史・文化を基盤とし、第1次産業から第3次産業までが地域の中で相乗効果を生み出す「第6次産業のまちの創造」をテーマに高島市の産業振興を図り、里山から琵琶湖へと、水の流れて命育むステージにおいて、祭や食・産品・雪など、高島ならではの「あるもの」を活かし、来訪者が共感し魅力を感じることでできる観光地づくりを目指す。</li> <li>■地域再生を進める為には多様な担い手が必要であり、特に観光ガイドの育成が急務である。高島の様々な人、資源、産業をつなぎそれを第6次産業的な視点で来訪者に伝えることができるガイドを育成することに主眼を置き、地域再生の担い手を育成する。</li> </ul> </p>	<p><b>【実施事業・取り組み】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■ガイド育成研修プログラム(リスクマネジメント、おもてなし)</li> </ul> </p> <p><b>【今後の実施事業】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■受講者のさらなるスキルアップ</li> <li>■観光プログラムの企画、プロデュースができる人材育成</li> <li>■研修プログラムのブラッシュアップ</li> <li>■ガイドのさらなる発掘</li> <li>■魅力的な物産やサービスの開発及び食の提供</li> <li>■地域全体でのおもてなし(ホスピタリティ)の醸成</li> </ul> </p>	

高島市針江地区 (滋賀県)	ほんまもん資源		資源分類						指定・選定・認定等	
	生水(湧水)「かばた」		農林水産	産業技術	歴史	伝統文化	芸能芸術	自然環境	ランドマーク	平成の名水百選、びわ湖・里山観光振興特区「全国美の里コンクール」農林水産省銀賞受賞、「豊かなむらづくり全国表彰事業」農林水産大臣賞受賞、エコツーリズム大賞特別賞受賞

**その他**

**【観光】**

- 針江には三本の水脈があり、それぞれ味が違う。利き水をしながら歩いてもらっている。
- 案内ガイドの方はゴミ袋を持ってゴミ拾いしながら案内する。さらに、ひとり暮らしのお年寄りの家がコースにあれば声をかけて安否確認もしている。かばたの水を守ってくれたお年寄りに感謝しこの地で育ってよかったと思えるふさふさとして自慢できるようになれば良いと思っている。
- 針江には日本の原風景がある。懐かしさがあり、そのためリピーターも多いと思われる。地元のおばあちゃんと話ができることもうけているようである。「贅沢な時間」を過ごせたという感想も聞く。
- 有名になっているので、モノを売ってはどうかという意見もあるが、なかなか商品が揃わない。お客さんからこの水を使ったコーヒーを飲みたいという意見も聞くが、現時点では難しい。水の販売はしていないが、許可されているところから持ち帰る人は多い。水を粗末にすると戒めがあると言われており、水を売るようなことは考えたくない。大事に、大事に、子供に伝えていきたい。土産物も針江のもの以外はやめて欲しいと思っている。
- 活動がうまくいった秘訣は、「針江が好き、みんなと活動するのが好き、針江が自慢」という気持ちだと思う。
- PR活動はしていない。マスコミだけである。韓国や台湾のテレビでも取り上げられており、修学旅行生が来る。幸いこの地域には在日の方もいらっしゃるの、協力してもらっている。
- この地区に住みたいという問い合わせも多い。今度、博物館を作る資格を持った人もやってくる。農業をしたい人、社員の癒しの場として小規模な保養所を作りたいという会社もある。針江のどこでも水が湧くわけではないが、できるだけ若い人にはかばたのある空き家を斡旋しようとしている。空き家の修繕は居住者にしてもらう。
- 針江はあくまで観光地にはしたくない。勉強する場、癒しの場でありたい。このため、観光会社のツアーは断っているし、不真面目な団体も断っている。
- 5年目を向かえ、現在の活動は順調であり、課題も特にみられない。最近ではトラブル対応の必要もなくなって来ている。当初は理想と思っていたが、実際に世界に発信することもできた。世界中、アフリカからも人が訪れる。外国の人は、あふれる水がもったいないと言うが、琵琶湖、下流のためにきれいな水を流し続けたいといけな。
- やってくる子どもたちは、良く勉強している。駅からゴミ袋を持って、ゴミを拾いながらやってくる子どもたちもいるほど、意識が違うと感じる。

**【里山博物館構想】**

- 「かばた文化」は日本の原風景であり、里山水辺博物館構想を発表。まち全体を「博物館」に見立てたものである（ハコモノの博物館ではない）。
- 里山水辺博物館構想では、カエルのいる田んぼなど、昔の姿に戻すことを考えている。この米のおにぎりを配ったり、豚汁を振舞うなど、収益の中からおもてなししている。また、琵琶湖河川事務所も参画してもらい、パンフレットを提供してもらったりしている。
- 今回、里山水辺博物館の冊子を作ろうとしているが、写真だけでなく、イラスト（協力してくれる人の得意分野）の形で協力してもらっている。

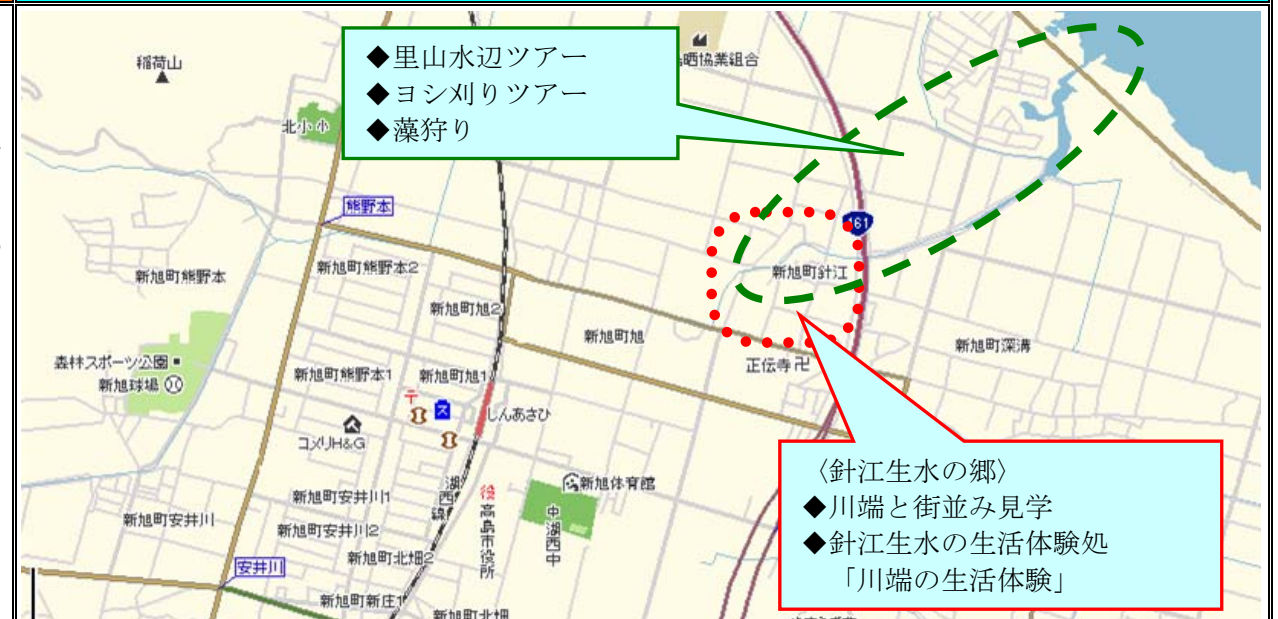
**【その他】**

- 針江はもともと結束力が高い地域。水を神として祀り、かばたは聖域という考え（お正月には鏡を飾り清めるなど）が根付いている。
- 「かばた」は2004年に里山水辺の紹介（命めぐる水辺）として、NHKハイビジョンで放映され、世界に発信された。これを見た人が徐々にかばたを訪れるようになった。
- 紹介された映像を見て、「かばた文化」がすばらしいと理解し、地域の人たちががんばり始めた。
- 針江には自動販売機は（酒屋の一台を除いて）存在しない。おいしい水があるから、それを飲めば良い。逆に自動車を洗う時に水道水を使ったりと、通常の地域とは逆になっている。
- 水を飲むコップは、お年寄りの方に一つ50円で作ってもらっている。お年寄りの元気づくりにもなる。材料は、竹やぶ再生になるように、竹を間引いたもので作成している。コップを作成する際に、どうしてもコップに使えない部分が残るが、その部分を用いて箸を作っている。その箸を、外食産業の業者が使用したいのでたくさん作ってくれと依頼してきたこともある（たくさん作ることができないので断った）。
- 針江に住んでいる人は、あまり出て行かない。以前からそうである。住み良いから出て行かないのではない。新しくやってくる居住者も寛大に受け入れている。

**【ビジネスプランオーディション】**

- 高島の地域資源を活かした新たなビジネスに取り組み、希望者を市内外から募り、ビジネスプランの段階から磨き上げ支援する。
- 滋賀県・高島市との協働で、ブラッシュアップされた取り組みをモデル事業として、或いは観光版企業誘致助成として財政的支援制度を創設した(H19～22年度末までの立地が対象)。
- 高島市営業開発室が中心となり、人材や事業の発掘・育成、観光マーケティング等を通じて、高島市全体をプロデュースする。当初は地域再生マネージャー(アマタ株式会社)が本部をサポートし、設立準備中の地域プロデュース会社(仮称 株式会社高島プロデュース)に引き継ぐ。

**地域づくりの取り組み活動エリア**



高島市針江地区 (滋賀県)	ほんまもん資源	資源分類						指定・選定・認定等
	生水(湧水)「かばた」	農林水産	産業技術	歴史	伝統文化	芸能芸術	自然環境	ランドマーク

## 地域づくり取り組み組織・団体等の参考データ

名称	構成員(従業員)等人数	創業(設立)年	連絡先・HPアドレス等
針江生水の郷委員会	■ 45名(2006年12月現在) 特別顧問 里山の写真家 今森光彦氏、田中三五郎氏 他	■ 2004(平成16)年5月	■ <a href="http://www.geocities.jp/syouzu2007/">http://www.geocities.jp/syouzu2007/</a> ■ E-mail takamt.jp@yahoo.co.jp ■ 電話 090-3168-8400
環の郷産業経済振興協議会	■ 9名 ■ 会長は高島市商工会長	■ 2006(平成18)年	

山城地域 宇治市・城陽市・八幡市・京田辺市・ 木津川市・久御山町・井手町・ 宇治田原町・笠置町・和束町・ 精華町・南山城村 (京都府)	ほんまもん資源		資源分類					指定・選定・認定等	
	宇治茶(日本緑茶)		農林水産	産業技術	歴史	伝統文化	芸能芸術	自然環境	ランドマーク
地域づくりの取り組みの特徴・PR		日本緑茶の創始者・永谷宗園ゆかりの地、煎茶の製法の発見、玉露の発明など、この地が日本茶の原点であることを核に、官民一体となってまちづくりに取り組んでいる。茶の歴史・製法・入れ方・飲み方など、茶に関わる一連の過程1つ1つを地域の大切な資源と捉え、ここでしか体験できない・ここでしか味わえないをコンセプトにまちづくりを行い、また同時に茶の文化を保全、そして次世代に継承する取り組みも積極的に行っている。							

位置図		ほんまもん資源の概要		
	特徴(ほんまもん潜在能力度)		写真・図等	
	独自性	原材料へのこだわり	京都、奈良、滋賀、三重4府県産いずれかの茶葉を使用	 <p>宇治茶の郷 和束の茶畑</p>  <p>宇治茶手揉み製法</p>  <p>焙炉跡</p>  <p>永谷宗園生家</p>  <p>京都山城「宇治茶の郷づくり」構想</p>
		栽培法・製造法等へのこだわり	【青製煎茶】初夏に芽吹く新芽のみを丁寧に摘み取り、蒸して改良した焙炉(ほいろ)の上で熱を加えながら、手で揉み上げる。	
		品質基準マニュアル	【宇治茶】京都、奈良、滋賀、三重4府県産いずれかの茶葉を100%使い、京都府内業者が宇治地域に由来する製法により仕上げ加工した緑茶。 【宇治茶ブレンド】4府県産茶葉を50%以上含み、京都府内業者が宇治地域に由来する製法により仕上げ加工した緑茶。	
		資源の歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 梅尾高山寺の明恵上人の勧めで、1191年に栽培が始まって以来、山城地域では広くお茶が栽培されてきた。</li> <li>■ 煎茶、玉露の発祥地</li> <li>■ 秀吉時代は宇治茶師として許可制であり特権が与えられた</li> <li>■ 童謡のお茶壺道中が有名であるが、昔はお上に献上する茶壺が通る時は皆家に隠れ、大名行列よりもすごいものであった。</li> <li>■ 明治期はお茶の集積地であった。</li> </ul>	
		資源に関連する人物伝	永谷宗園(日本緑茶の創始者)	
		資源に関連する歴史的行事	宇治茶まつり	
	永続性	保全・継承	“指定・選定・認定”等の登録、宇治茶の郷づくり協議会、京都府宇治茶製法手もみ技術保存会連絡会議、ほっこりサークル、永谷宗園翁顕彰会、NPO法人わづか有機栽培茶業研究会、NPO法人南山城村茶ECO(ちゃえこ)プロジェクト 他	
	流通性	マスメディア登場経歴	NNHK、民放各種番組 他多数	
	希少性	明確な特徴	日本緑茶を発明したといわれる永谷宗園、煎茶の製法の発見、玉露の発明等、この地域が日本茶の歴史の原点であり、今もなお歴史・伝統を保全・継承している点	
地域限定		平成19年度山城地域荒茶生産量2,800ト(全国94,100トの3%)、煎茶、玉露の発祥地		
地域特有周辺環境		山城地域の気候、風土(川霧が立ち込めて湿度が高い)がお茶の栽培に適しており、また高級嗜好品の大量消費地であった都に近かったという地理的要因が『宇治茶』を育み、生産・加工・仕上げといった技術を開発し高めた。		

山城地域 宇治市・城陽市・八幡市・京田辺市・ 木津川市・久御山町・井手町・ 宇治田原町・笠置町・和束町・ 精華町・南山城村 (京都府)	ほんまもん資源		資源分類					指定・選定・認定等	
	宇治茶（日本緑茶）		農林水産	産業技術	歴史	伝統文化	芸能芸術	自然環境	ランドマーク

## 資源を活かした地域づくりへの取り組み状況等

【活動団体名称】【活動目標】	【実施事業・取り組み】【今後の実施事業】	【取り組みの推進体制】【課題】
<p><b>【活動団体名称】</b> 宇治茶の郷づくり協議会</p> <p><b>【活動目標】</b> ■山城地域の「宝」である宇治茶を活かした地域づくりを長期的展望に立ち進める為、茶業関係団体と行政等が連携し横断的組織として設立。 ■宇治茶の素晴らしさを見つめ直し、歴史的、文化的価値等を高める中で宇治茶振興と宇治茶を活かした地域づくりを進める。 ■お茶の生産拡大とお茶の成分等の活用を推進、歴史と文化の再発見運動の推進と「お茶する生活」の普及、宇治茶の郷から情報発信、宇治茶の郷づくり推進組織・体制づくり</p>	<p><b>【実施事業・取り組み】</b> ■宇治茶の郷スタンプラリー2007 ■宇治茶歴史街道研究会 宇治茶の歴史文化を活かした街道づくりは、テーマ性を持って、地域に点在する歴史、文化、景観等をつないだコースを設定し、コースに沿ったストーリー展開を、委員会の先生方の意見を伺いながら検討中。 ■「宇治茶の歴史文化・再発見シンポジウム」「宇治茶の郷づくりシンポジウム」「宇治茶生産拡大・茶業研究所セミナー」「茶づくし料理教室と宇治茶の郷めぐりツアー」「山城の食満喫ツアー」 ■平成 20 年度からは①認定制度としてカフェと手もみマイスター②宇治茶の歴史文化を活かした街道づくりとしてサイン等の検討③10 月～11 月を宇治茶の郷創月間④宇治茶の郷通信は 4 回／年、その他観光 PR もしている。 ■新住民も含めた地元の人への PR や宇治茶の魅力再発見へ向けた取り組み ■平成 20 年度からは外からの人を呼ぶことも目標に掲げて取り組んでいる。 ■保健所の事業の中の団塊の世代へのセミナーのひとつとして玉露の楽しみ方講座を行っている ■情報誌（宇治茶の郷通信）の発行</p>	<p><b>【取り組みの推進体制】</b> ■平成 18 年に準備会+12 市町村で設立。 ■事務局会議（7 名程度）を頻繁に開催しながら運営している。</p> <p><b>【課題】</b> ■近年は、ペットボトルのドリンク用のお茶が増加しており、リーフ茶は需要減で頭打ちの状況である。 ■地域の歴史・文化資源と連携しながら、更に宇治茶の良さ、ブランド力を高めていきたいと考えている。 ■パンフレットは、奈良線の主要駅、市町村の直販所等に置いていますが、宇治駅等では 100 部単位で持っていかれる。予算の都合上、配布できる部数が少なく、PR の範囲に限られる。 ■お茶そのものについては、地元のお年寄りでも深くは知らない人もいるため、そのすごさを再発見してもらい、地域の人々が自慢できるような取り組みにつながればと考えている。 ■馬籠、妻籠の風情はないが、山背古道という旧道が存在し、この古道の活用も考えていかなければならない。 ■団塊の世代がコアファンとして増加してきている一方で、交通の便が悪いこと等もあり、観光客を如何に呼び込めるかが課題である。 ■現在の観光ボランティアガイド各市町村レベルであり、連絡協議会をつくり連携させたいと考えている。 ■永谷宗圓生家を再生し、碑が立っているように、点在する碑等の施設を活用していきたい ■現在手もみ工程は、機械化されているが、お茶は生き物なので、職人がその状態をしっかりと見極めながら調整をする必要があることから、手もみ技術を継承していくことが重要である。</p>

## 資源を活かした地域づくりへの取り組み状況等

【活動団体名称】【活動目標】	【実施事業・取り組み】【今後の実施事業】	【取り組みの推進体制】【課題】
<p><b>【活動団体名称】</b> 京都府宇治茶製法手もみ技術保存会連絡会議</p> <p><b>【活動目標】</b> ■「宇治茶製法」とも呼ばれる永谷宗圓によって発案され発展した宇治茶手もみ製茶技術を伝承する。 ■会員である各保存会(宇治茶製法技術保存協会、京田辺茶手もみ技術保存会、宇治田原手揉保存会、和束茶手揉技術保存会、南山城村茶手もみ技術保存会、社団法人京都府茶業会議所)の 6 団体で構成する。</p>	<p><b>【実施事業・取り組み】</b> ■宇治茶製法手もみ技術競技大会</p>	

山城地域 宇治市・城陽市・八幡市・京田辺市・ 木津川市・久御山町・井手町・ 宇治田原町・笠置町・和束町・ 精華町・南山城村 (京都府)	ほんまもん資源		資源分類					指定・選定・認定等	
	宇治茶（日本緑茶）		農林水産	産業技術	歴史	伝統文化	芸能芸術	自然環境	ランドマーク

## 資源を活かした地域づくりへの取り組み状況等

【活動団体名称】【活動目標】	【実施事業・取り組み】【今後の実施事業】	【取り組みの推進体制】【課題】
<b>【活動団体名称】</b> ほっこりサークル  <b>【活動目標】</b> ■お茶の作り方・味・おいしい飲み方・活用方法等、お茶への「こだわり」やとっておきの情報を多くの方に伝え、地域の自然を満喫しながら『お茶の全て』『本物のお茶の魅力』を体験できる場を提供し、交流を深め、人々の生活を豊かにすることを手伝う。	<b>【実施事業・取り組み】</b> ■和束山の家周辺ティーパーク整備、和束茶カフェ整備、来町・交流、グリーンツーリズム等の受け入れ事業実践、啓発ツール作成等 ■茶摘み体験、お茶の手揉み体験、茶香服体験、お茶の文化講座、ほっこり市やほっこり広場、在来茶オーナー募集、再生茶園オーナー募集、新茶・こだわり茶の販売	

## 資源を活かした地域づくりへの取り組み状況等

【活動団体名称】【活動目標】	【実施事業・取り組み】【今後の実施事業】	【取り組みの推進体制】【課題】
<b>【活動団体名称】</b> 永谷宗圓翁顕彰会  <b>【活動目標】</b> ■日本緑茶の創始者=永谷宗圓翁の偉業を讃え感謝し、茅葺き屋根の「永谷宗圓生家」を復興し、茶文化発信拠点としてお茶文化に触れる場を整備・活用し、町の活性化、地域づくりに生かす。また、町内外に急須でお茶を飲む茶文化を広める。	<b>【実施事業・取り組み】</b> ■永谷宗圓翁生家の補修・復元 ■永谷宗圓翁生家改修竣工式茶まつり、新春茶もみ・お茶とふれあう集い、湯屋谷の史跡・名勝案内マップ作成、啓発ツール作成、地元住民による観光案内システム等	

## 資源を活かした地域づくりへの取り組み状況等

【活動団体名称】【活動目標】	【実施事業・取り組み】【今後の実施事業】	【取り組みの推進体制】【課題】
<b>【活動団体名称】</b> NPO法人 わづか有機栽培茶業研究会  <b>【活動目標】</b> ■和束茶の有機栽培を通じて、「和束町の地域環境の保全・育成」「和束ブランドを世界に発信し、和束町の産業づくり、文化の創造」「和束町のあらゆる人とのパートナーシップづくりを行い、和束町全体の発展」に貢献する。	<b>【実施事業・取り組み】</b> ■より安全でおいしい「和束茶」の栽培研究や、「和束町」「和束茶」の普及・宣伝を目的とし、多くの人達とのふれあいを通じて様々な活動をしている。 ■国際ワークキャンプ ■エコファーマー ■精密農業 ■各種イベント(田舎暮らし体験、農作業体験、茶香服体験、おいしいお茶の入れ方講座)	

## 資源を活かした地域づくりへの取り組み状況等

【活動団体名称】【活動目標】	【実施事業・取り組み】【今後の実施事業】	【取り組みの推進体制】【課題】
<b>【活動団体名称】</b> NPO法人 南山城村茶ECO(ちゃえこ)プロジェクト  <b>【活動目標】</b> ■「お茶」「南山城村」「地域交流」「次世代の暮らし(地球環境問題)」「ものづくり」などのキーワードを組み合わせながら、南山城村の特産品である「お茶」を取り巻く環境の向上、村の活性化、安心して暮らせる社会の構築などに寄与する。	<b>【実施事業・取り組み】</b> ■「マイ湯のみ運動-日本列島いつでもどこでも”お茶の間”化プロジェクト」「茶ECO(ちゃえこ)かざぐるま」 ■茶畑コンサート、むら活生きまつり  <b>【今後の実施事業】</b> ■南山城村の PR・広報活動、地域の特産品(お茶等)の普及拡大、地球環境問題に関する各種調査・企画・運営、地域コミュニティー形成のための各種調査・企画・運営、農林業の運営・管理・各種調査・助言、地域の観光振興事業、新たな特産品開発事業、南山城村の特産品などの物品販売、南山城村の伝承技術・伝統文化の保存・活用	





<b>山城地域</b> 宇治市・城陽市・八幡市・京田辺市・ 木津川市・久御山町・井手町・ 宇治田原町・笠置町・和束町・ 精華町・南山城村 <b>(京都府)</b>	<b>ほんまもん資源</b>	<b>資源分類</b>						<b>指定・選定・認定等</b>
	宇治茶(日本緑茶)	農林水産	産業技術	歴史	伝統文化	芸能芸術	自然環境	ランドマーク

## 地域づくり取り組み組織・団体等の参考データ

名称	構成員(従業員)等人数	創業(設立)年	連絡先・HPアドレス等
宇治茶の郷づくり協議会	■事務局：社団法人京都府茶業会議所	■2006(平成)18年	■宇治市宇治又振 17-1 ■TEL：0774-23-7713 ■FAX：0774-23-9651 ■http://www.ujicha.or.jp/sato/index.html
京都府宇治茶製法手もみ技術保存会連絡会議	■宇治茶製法技術保存協会(会員数55人) ■京田辺茶手もみ技術保存会 ■宇治田原手揉保存会 ■和束茶手揉技術保存会 ■南山城村茶手もみ技術保存会 ■社団法人京都府茶業会議所		
ほっこりサークル ■2008(平成20)年6月『新世紀かがやき交流賞』(京都府知事表彰)受賞	■代表者：上嶋伯協 ■担当者：竹谷保廣 ■構成人数：15人	■2000(平成)12年	■和束町大字釜塚小字生水 16-1 和束町商工会事務局内 ■TEL：0774-78-3321 ■FAX：0774-78-4030 ■http://hokkori.kyoto-fsci.or.jp/index.htm ■E-mail wazuka-sci@kyoto-fsci.or.jp
永谷宗圓翁顕彰会	■代表者：安井徳昭 ■事務局：谷村稔 ■構成人数：62人	■2006(平成)18年	■宇治田原町大字湯屋谷小字中谷 18 番地 ■TEL：0774-88-2224
NPO法人 わづか有機栽培茶業研究会	■理事長：中井章洋 ■21名	■1998(平成10)年3月	■http://kyoto.cool.ne.jp/wazuka-yuukichaken/ ■E-mail wazuka-yuuki@cpost.plala.or.jp
NPO法人 南山城村茶ECO(ちゃえこ)プロジェクト	■理事長：木野正男 ■役員：7名、社員：11名	■2008(平成20)年6月  ※任意団体として 2006(平成18)年6月発足	■南山城村北大河原小字久保 14-1 南山城村役場 産業生活課内 ■TEL：0743-93-0101 ■FAX：0743-93-0444 ■http://www.kyoto-mura.com/ http://chaeco.kyoto-mura.com/ ■E-mail chaeco@nifty.com